

すみだこども園 森林環境教育（森林ESD）プログラム分析シート

プログラム名：	森ともだち ～自然の中で共に育ちあう～	
(1) プログラムの目標	<ul style="list-style-type: none"> ・森へ一歩踏み出してから味わう何とも言えない解放感や楽しさを十分に楽しむ。 ・自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り五感を働かせながら感じたことを表現する。 ・木工体験では「自分で作る」「自分でできた」という気持ちを大切に最後まで作り上げる。また、身近にある自然物を使っていろんなものが作れるということを知る。 	
(2) プログラムの概要	<p>★4歳児の11月に初めてひだまりの郷に足を踏み入れ森へ探検に行く。 木工体験では、くまさんペンダントを作る 1日の振り返り（絵本・発表）</p> <p>★5歳児の5月に再びひだまりの郷へ行く。ロープ1本をたよりに山登りに挑戦する。 木工体験では、間伐した竹を利用して初めてのこぎりに挑戦。貯金箱や花瓶など作る。 1日の振り返り（絵本・発表）</p>	
(3) プログラムの展開		
<p>活動内容について、プログラムの流れで、記載する。 合わせて、段階的な学びとして、3つのタイプのアクティブ・ラーニング（in、about、for）の視点で活動内容を区分してみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ in（～の中で）－ 体験、観察、製作など（関心・意欲、知識・技能） ・ about（～について）－ 情報収集・分析、情報交換、討論など（知識・技能、思考・判断・表現） ・ for（～のために）－ 提案、実践など（態度、参加・行動） 		
時間数	プログラムタイトル	
	活動内容	指導・支援の方法、ポイント等（教材等）
in、about、for の視点で活動内容を区分		
1	打ち合わせ	
	ひだまりクラブの小杉さんとこども園の職員と事前打ち合わせ 担任がグループ分けをする	ひだまりの郷での過ごし方について話し合う 探検コースの確認 服装の確認（山に入る時は季節を問わず長袖・長ズボン） グループ分けをすることで仲間意識を高める
about 情報の共有・安全確認		
40分～1時間	ひだまり探検隊スタート	
	ひだまりクラブの小杉さんを先頭に森に入っていく。 4歳児探検 5歳児山登り・探検	森の中での約束事を聞く。（AKDの約束） 森の中での不思議に出会い、見たり、においをかいだり、触ったり、耳を澄ませたりする。
in 森の中での探検		
40分	木工体験	
	ひだまりの郷に落ちている木や枝そして、間伐した竹を使う。	グループごとに分かれる（各グループにスタッフか職員が入る） 目の前にある木々がひだまりの郷でとれたものだを知る。 グループの仲間と協力し、困ったことがあれば助け合い、自分の声に出して助けを求める。 世界に一つだけの作品完成。
in 木工体験 作る楽しさを味わう		
20分	振り返り	
	絵本の読み聞かせ 1日の振り返り（一言発表）	四季折々の話や動植物の話を経験を通して楽しむ。 自分の思いを整理して言葉で振り返り仲間同士共感し合う。
about 情報交換・発表		

(4) プログラムでの連携内容

(教育機関、地域、団体等での、①連携・協働先、②役割分担、③具体的な連携・協働の内容)

①連携・協働先

橋本ひだまりクラブ と すみだこども園 (4歳児50名・5歳児69名)

和歌山県緑化推進会 緑の募金事業

②役割分担

ひだまりクラブ→プログラムの指導・郷土の森の点検・木工の準備・豚汁の準備 等

すみだこども園→保護者様への連絡・園児プログラム実施・園児の安全確保・事後の保護者様への連絡 等

③具体的な連携・協働の内容

緑の募金事業をとおして、補助金をいただいています。

学習指導要領との関連 (例 小学校)

1年	生活：身近な自然の観察、利用	
2年	生活：生き物を育てる、成長	
3年	社会：飲料水、地域の生活	理科：昆虫と植物（自然の観察、植物を育てる）
4年	社会：都道府県の様子・生活	理科：季節と生物（身近な植物の成長、季節による違い）
5年	社会：国土の自然・環境、国土保全	理科：植物の発芽、成長、結実
6年	社会：歴史上の事象、文化財	理科：生物と環境
総合的な学習	横断的・総合的な課題の学習、社会体験、討論・発表	
特別学習	遠足・鑑賞、集団活動・生活	

森林環境教育の視点

1 感性的経験	感性的な内容 — 森林の感性的把握や美的把握、畏敬の念など
2 自然的特性	森林の自然的特性に関わる内容 — 植物や動物の生態など
3 多面的機能	森林と人とのかかわりに関する内容 — 森林の働き、保安林など
4 現状・課題	森林の現状に関する内容 — 森林の荒廃、人手不足など
5 管理・維持	森林の管理・維持に関する内容 — 森林整備、育成、維持、管理など
6 歴史・文化	森林とのかかわり方の歴史 — その土地での歴史、薪炭林、炭焼き

(5) 活動の分析 (学習指導要領との関連または森林環境教育の視点) 上位3項目

教科・項目、視点	学習内容
自然との関わり・生命尊重	自然にふれて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、身近な事象への関心を高める。身近な動植物を命あるものとして心を動かし、親しみをもち接し、いたわりを大切にしたい気持ちをもつようになる。
協同性	友だちと関わる中でお互いの思いや考えなどを共有し、考えたり、工夫したり、協力したりする充実感を味わいながらやり遂げる。共に育ち、学びあいながら豊かな経験を積み重ねる。
豊かな感性と表現	心を動かす出来事に触れ感じたことや思い巡らしたことを自分で表現したり友だち同士で表現する過程を楽しんだりして、表現する意欲が高まるようになる。

(6) 活動の分析 (資質・能力の視点)				
ESDの要素 (生きる力)	能力	1 批判的に考える力	態度	5 他者と協力する態度
		2 未来像を予測して計画をたてる力		6 つながり尊重する態度
		3 多面的、総合的に考える力		7 進んで参加する態度
		4 コミュニケーションを行う力		
資質・能力 三つの柱	①生きて働く「知識・技能」の習得			
	②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成			
	③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養			
次期学習指導要領では、持続可能な開発のための教育（ESD）等の考え方も踏まえつつ、「生きる力」とは何かを、「資質・能力」（三つの柱）に沿って具体化するとしています。 活動を、三つの柱の項目に再整理して記載をしてください。（該当がない項目は空欄）				
項目	ESDの要素（7つの能力・態度）の視点で見つめ直して、 もっとも重視する視点の内容を記載してください。			
①生きて働く「知識・技能」の習得	〈進んで参加する態度〉 森の中での空気や匂い、木々の色や植物に興味を示し、五感を働かせて自分なりに感じたことを新しい知識として習得し自ら自然を身近に感じていけるようになる。			
②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成	〈コミュニケーションを行う力〉 一日の振り返りの時間をもち、自分なりに感じたことを自分の言葉で相手に伝え、また友だちの思いを聞くことで言葉による表現を楽しむようになる。			
③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養	〈協力する態度〉 木工体験を通して、何を作るか目標を持って取り組む中で、友だちと協力して竹を選び運んだり、友だちと意見を出し合い充実感を味わいながらやり遂げる。			
(7) 実施後、参加者の変化				
木工体験で作った作品を家に持ち帰り、コップを鉛筆立てにしたり、貯金箱も活用し、大切に使っている様子を聞くことが出来た。また、園周辺お散歩で赤い実を見つけて「これは何んの実かなあ？」と友だち同士相談したり、図鑑で調べたりする姿がある。また、冬イチゴを見つけ、「ひだまりで教えてもらった葉っぱと同じやからこれは冬イチゴや！！」とお土産にもって帰ってきてくれる姿もあった。 そして、休日にはひだまりの郷がどんなところなのかと家族で見に行ったという報告も聞いています。				
(8) 安全対策として事前・当日の取組事項				
事前に、ひだまりのスタッフと保育士が現地を確認する。また、当日はひだまりのスタッフが朝一番に現地の確認に行ってください、園児が到着するまでにスタッフと職員が再確認を行う。天候や園児の体調でコースの変更もあります。				
(9) プログラムの今後のめざす方向・展開				
5歳児が竹で木工体験をし、秋ごろに森へ行って植樹活動を行いひだまりの郷の森林を守る気持ちも育てていきたい。				
(10) 現状での課題、質問事項など				